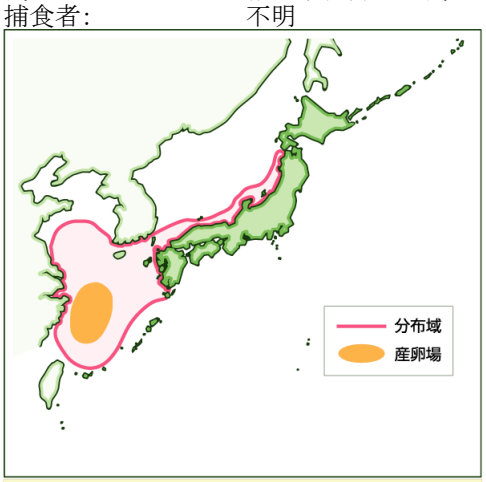
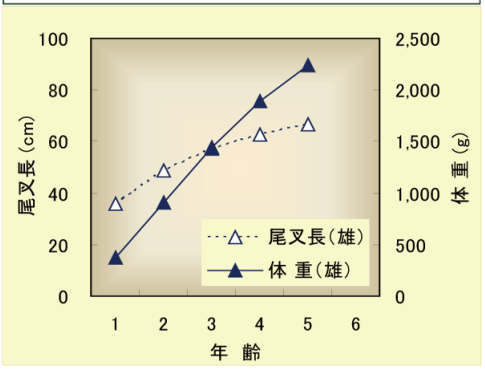
平成22年度資源評価票（ダイジェスト版）

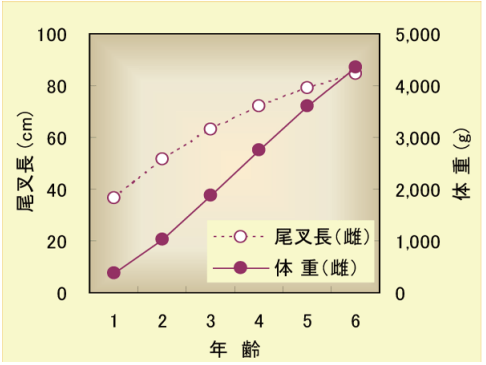
標準和名 サワラ
学名　*Scomberomorus niphonius*
系群名　東シナ海系群
担当水研 西海区水産研究所

生物学的特性

寿命:　約6歳
成熟開始年齢:　1歳(一部)、2歳(大部分)
産卵期・産卵場:　3～6月に産卵、産卵場は東シナ海の中央部～中国沿岸
索餌期・索餌場:　夏～秋季、黄海・渤海、日本海など
食性:　稚魚期以降に魚食性
捕食者:　不明





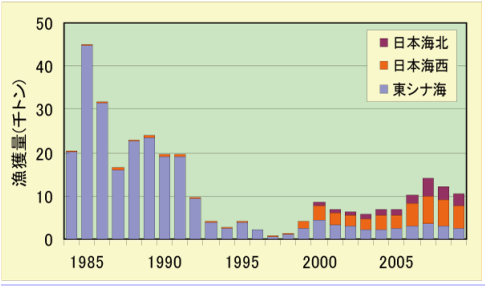


漁業の特徴

1990年代半ばまでは、サワラ東シナ海系群の日本の漁獲量のうちの大半が、東シナ海の大中型まき網によるものであった。しかし2000年以降では、東シナ海の大中型まき網によるサワラの漁獲量が、本系群の漁獲量に占める割合は低くなっている。現在では日本海の定置網による漁獲量が多く、本系群の漁獲量の半分以上を占めている。

漁獲の動向

日本の漁獲量は1984～1991年は20千トン前後で推移していたが、1992年以降に急減して、1997年には822トンまで落ち込んだ。1998年以降は増加し、2000年は8,548トンとなった。2001年は減少し、2005年まで横ばい傾向を示した。2006年以降は増加し、2007年は14,104トンと近年では最も高い値となったが、2009年は10,533トンに減少した。韓国の漁獲量も近年は高水準を示し、2009年は36,793トンであった。

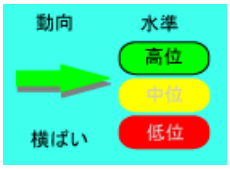


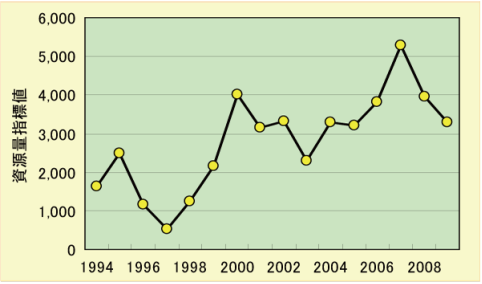
資源評価法

日本の漁獲量、東シナ海で操業する日本の大中型まき網のCPUE（漁獲量／有効努力量）、韓国の漁獲量の相乗平均値を、資源量の増減を示す資源量指標値と考え、これらの情報に基づいて資源評価を行った。大中型まき網により九州主要港に水揚げされたサワラの体重別漁獲尾数、日本海の定置網により漁獲されたサワラの尾叉長組成は得られるが、コホート解析による資源量推定は行わず、これらの情報は参考にとどめた。

資源状態

日本および韓国によるサワラの2009年漁獲量は、過去26年間（1984～2009年）において6番目に高い値であり、資源量指標値も2009年も高い水準を維持しているため、資源水準は高位と判断した。また、2008年以降は漁獲量、資源量指標値が減少しているが、最近5年間（2005～2009年）ではほぼ中間値にあるので、資源動向は横ばいと判断した。1998年以降、日本海における漁獲量が増加し、2006年以降はさらに増加していて、漁獲量全体の70%以上を占めている。漁獲量は増加傾向にある一方で、東シナ海における大中型まき網および日本海の定置網の漁獲物の大半は、1歳以下の若齢魚である。





管理方策

資源水準は高位、資源動向は横ばいであり、日本の漁獲量は韓国、中国の漁獲量に比べてはるかに少ないので、現状の漁獲圧を維持しても良いと判断した。したがって、資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲することが妥当である。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	105百トン	1.0C2009	ー	ー
ABCtarget	84百トン	0.8･1.0C2009	ー	ー

- 日本漁業に対する値

資源評価のまとめ

- 日本の漁獲量、大中型まき網のCPUEおよび韓国の漁獲量の相乗平均値を資源量指標値として、これらの情報に基づいて資源評価を行った
- 資源水準･動向は高位･横ばいと判断される
- 日本海における漁獲量の割合が増加している
- 1歳以下の若齢魚が漁獲物の大半を占める

管理方策のまとめ

- 国際的な資源管理体制が構築されるまでは、現状の漁獲圧を維持する
- 資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲する
- 東シナ海全域での資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である
- 2歳魚は大部分が成熟するが、漁獲の大部分は0歳と1歳であるため、小型魚の保護も考慮すべきである

執筆者：塚本洋一、由上龍嗣

資源評価は毎年更新されます。